

Ippin 縄文時代 後 期

立体的で華やかな土器から、磨消縄文手法*が盛行する土器へ変化していきます。シンプルでありながらも、洗練された土器となります。精製土器と粗製土器の違いが明確化するのもこの時期です。

*磨消縄文技法：あらかじめ施した縄文を部分的にこすりとって無文部とし、縄文部とのコントラストを作る手法のこと。



高木遺跡
出土深鉢
(本宮市)



川原遺跡
出土注口土器
(国見町)



赤柴遺跡出土
濾過器付土器
(南相馬市)



田子平遺跡
出土深鉢
(浪江町)

儀礼用と考えられる精製土器の中には、土器の蓋や土瓶のような注口土器、濾過器付土器、さらに赤彩土器や研磨された土器も作られました。土器製作技術の向上が見てとれます。

Ippin 縄文時代 晩 期

亀ヶ岡式土器に代表される時代です。研磨されることで浮かび上がる晩期特有の三叉文・羊歯状文・雲形文・工字文などが彫刻的な手法で作出されます。また、究極まで高められた彩色技術は、縄文芸術の粋とも評されます。



羽白C遺跡
出土壺形土器
(飯館村)



日向南遺跡
出土香炉形土器
(飯館村)



獅子内遺跡
出土注口土器
(福島市)



一斗内遺跡
出土浅鉢
(須賀川市)

深鉢形土器に加えて、浅鉢・壺形土器・注口土器・香炉形土器の多様な器種が作られました。流麗で複雑な文様、高度な彩色技術は、現代人も目を見張るような出来栄です。縄文時代晩期の土器は、縄文芸術の到達点とも言える逸品です。



Ippin of Jomon vessels



川原遺跡
出土注口土器
(国見町)

『アラビアンナイト』に出てくる「アラジンの魔法のランプ」を彷彿とさせる注口土器。見る者を縄文時代へいざなうような不思議な魅力をもつ逸品です。

7月7日 (土) ~ 9月2日 (日)



まろっと縄文 第2弾



〈平成30年7月7日発行〉
開催期間：平成30年7月7日～9月2日
編集・発行：公益財団法人福島県文化振興財団
〒961-0835 福島県白河市白坂一里段 86
TEL：0248 (21) 0700 FAX：0248 (21) 1075
ホームページ：まほろん 検索

福島県文化財センター・白河館

〒961-0835 福島県白河市白坂一里段 86
TEL 0248-21-0700



平成三十年度夏之展示

縄文土器

逸品

Ippin

企画展
『縄文土器の逸品』 開催にあたってのごあいさつ

福島県内の発掘調査で出土した多くの縄文土器の中でも、本館収蔵の優品を展示いたします。

実用的に作られた形。実用性と相反するような過剰ともいえるデザインの土器。シンプルでありながらも赤彩や研磨などの高度な手法により完成された土器。

縄文土器は、時代や地域、使い方の違いによって、多種多様に発達しました。容器としての機能にとどまらない豊かな装飾性は、縄文芸術とも形容できるでしょう。土器を通して、縄文人の技術・感覚・意志を感じとってはいかがでしょうか。

館長 菊池 徹夫

Ippin
縄文時代
草創期
早期

縄文時代草創期の土器の出土例は、福島県内では非常に珍しく、現在のところ形が復元できるものではありません。

早期には定住化が進むことで、土器は普遍的に製作されるようになり、煮炊具として、縄文人の生活の中で確立された役割を担うようになります。この時期の土器は、底部が尖るデザインが多く、炉に埋め込んで使用していたと考えられます。機能がデザインに宿る実用的な土器の時代です。

達中久保遺跡
出土深鉢片
(石川町)

縄文時代草創期の土器は、非常に薄く、堅緻です。ヒトの爪跡を連続して押し付けた文様が特徴的です。

煮炊具であるこの時期の土器は、内容物が対流しやすいように縦長に作られています。

文様は縄だけでなく、貝殻や棒などの様々な施文具が使われるようになりました。

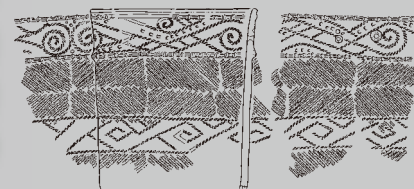
幾何学的な文様と実用性あふれる形が調和しています。

北平遺跡
出土深鉢
(会津美里町)泉川遺跡
出土深鉢
(白河市)田子平遺跡
出土深鉢
(浪江町)鴨ヶ館跡
出土深鉢
(小野町)

Ippin of jomon vessels

Ippin
縄文時代
前期

用途に合わせて器種が分化し、多様な器形の土器が作られるようになります。煮炊き以外の使用法を土器に求め始めた時代です。また、地文と意匠文および複数の文様帯が成立することで、土器の文様にさらなる展開が認められる時代です。

上田郷VI遺跡
出土深鉢
(広野町)獅子内遺跡
出土深鉢
(福島市)塩喰岩陰遺跡
出土片口土器
(西会津町)双子遺跡
出土鉢形土器
(新地町)

食生活に対する土器利用の考え方の変化が、多様な形の土器を生み出しました。これは、気候の温暖化や海面上昇の時期とも重なり、環境変化が要因の一つとも考えられます。また、突起をもつ口縁部は、中期土器の立体的な装飾への萌芽となります。

Ippin
縄文時代
中期

土器の地域色が明確化し、独自の文化圏を形成しながらも、広域にわたる交流を示す特徴が土器に共有されます。土器の造形は、立体的な装飾が盛行し、土器が大型化する時代です。ダイナミックで躍動的な縄文土器に溢れた時期です。

国重文
法正尻遺跡
出土深鉢
(磐梯町・猪苗代町)塩沢上原A遺跡
出土深鉢
(二本松市)弓手原A遺跡
出土異形土器
(福島市)高木遺跡
出土注口土器
(本宮市)

中期には、土器が炉に埋設されたり、骨壺として転用されたりして、土器本来の使い方とは異なる目的に利用されるようになります。また、煮炊きに使用された土器でも、華やかなデザインが施され、器として非実用的な土器すらあります。過剰なまでにデザインされた土器の形や文様は、見る者を圧倒します。